



マルト便

MARUTO INFORMATION

ホームページにバックナンバー掲載中

マルト商事

検索

お客様の笑顔のために...



6月号 MAY 2020

<http://www.maruto-shoji.co.jp>

府県産は若干品質に懸念 産地状況確認中

緊急事態宣言が解除され、少し世の中が明るくなった気がします。ここに至るまでの医療従事者の皆様には特に頭が下がるばかりです。

5月29日には航空自衛隊のブルーインパルスが東京上空を飛行し、医療従事者の方に感謝を表現しました。また、6月2日の20時には花火師の皆さんが、コロナ撃退への願いを込めて、また少しでも世の中が明るくなるようにと、全国一斉に花火を打ち上げて世間を明るくしてくれました。緊急事態宣言の解除を受けて少しずつですが、世の中が動き始めています。

しかしながら新型コロナとの闘いはまだまだ一進一退であると思います。明るい兆しが見えてはいますが今一度、気を引き締めて感染拡大を、それぞれ個人が防止するという意識で行動することが求められると考えます。

私自身、これまでの人生の中で仕事以外でマスクをすることは殆どありませんでした。それが今では外出する際には必ず、会社でデスクワークをしているときでもマスクをしています。ほぼ1日中マスクを着用しているのではないのでしょうか。新しい生活様式です。これまでの私の生活習慣にはなかったことです。食事をする際や人と会話する際、様々な場面で新型コロナにかからないような生活スタイルが当たり前となっていくのであると思います。

新しい生活様式が生まれれば、ビジネスのあり方も変わっていくことは間違いないと考えています。キャッシュレス決済やリモートワークなども益々進展しているようです。いかに接触を避けるかということも今はキーワードになっていると思います。

青果物流通の業界でも、商品と人が接触する部分を極力少なくしたり、産地訪問の方法がリモートになったり、コロナ時代に合わせた新しいサービスが求められるようになるかもしれません。当たり前が当たり前ではなくなる世の中になってしまいましたが、企業として生き残りをかけるためにお客様の求めるものを必死に考えていきたいと思っています。

さてコロナの影響で色々止まっても作物の生育は待つはくれません。玉葱は早生タイプの豊作傾向と業務加工向け商品が停滞したことにより、大きく低迷をしていました。5月下旬から玉葱生産量全国2位の佐賀県が玉葱の出荷調整を行ったことで需給バランスが変わり、相場は若干回復をしました。しかし6月は府県産が多く出回り始め、すぐに落ち着くと思われず。

今年の心配毎はとにかく畑を見れていない点です。4月の緊急事態宣言を受け、例年出荷前に行く、契約栽培玉葱の圃場確認ができていません。産地様より情報自体は頂いているのですが、実際の着荷品質とはなかなか合致しないというのが正直なところです。既に府県産地スタートしておりますが、品質面で若干不安があります。また、7月以降の中晩生種においてもサイズの小さめが予想されています。

今後は経済活動も緩やかに回復をしていくものと思います。業務・加工向けについても底を打ち回復することを期待し、皆さんに喜んでいただける商品を納品できるよう、産地様と一体となって供給させて頂きま。6月も宜しくお願い致します。



5月19日 富山県砺波地区

“食”の分野で役立つマーケティング情報

東京でもようやく新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言が解除されて初の週末を迎えています。天気にも恵まれたこともあり、繁華街は多くの人で賑わっています。新宿の伊勢丹新宿店では開店直前には約100人が長い列を作っていたそうで、みんな自粛生活からの開放感を満喫しているようです。こんな、普段であればあたりまえの光景が懐かしく、特別なもののように感じるのは不思議な気分です。

清潔好きな国民性だからなのか、BCGのおかげなのかわかりませんが、日本の感染者数と死亡者の数は被害の大きい国に比べて極端に少なく、感染の拡大は穏やかでゆるやかでした。緊急事態とはいえ、移動も自由でしたし、スーパーやコンビニは普通に営業していました。時間に制限はありましたが、営業している飲食店もあり、テイクアウトをすれば普段では高めの料理がリーズナブルな価格で味わうこともできました。不自由ではありましたが、他国の厳しい状況などをニュースで見ると、日本は穏やかだなと思います。隣の台湾では日本の対策を「仏式」と呼んでいるそうです。意外と日本の対策は後から振り返ると評価をされるのかもしれない。

JR東神奈川駅員が手作りで「伝言板」を復活させたそうです。かつては多くの駅に設置されていて、伝言などを書き込んだ思い出がある方もいると思います。利用者は誰かへの伝言ではなく、新型コロナウイルスに負けない思いや感謝の気持ちを書き込んだりしているそうです。特にスマホがあたりまえの若い世代の人にとって、深く緑がかった黒い板の上に書かれたチョークのざらついた白い手書きの文字のメッセージは、特別な何かであり心に残るものなのでしょう。手書きの文字のやりとりが新しいコミュニケーションの手段として見直されるかもしれません。

緊急事態宣言が始まってからテレワークが続く知人は「娘と話す時間が増えた」ととても喜んでいます。それまでは仕事が忙しく家に帰るのも遅く、子供との会話もあまりなかったそうで悩んでいたそうです。「そんなに悪いことばかりではなかったよね」と話す彼は笑顔で話していました。「満員電車に乗って通勤することはもうできない」という声も多く聞きました。こんな状況でもなければ、ここまで大がかりな在宅勤務を実行することは不可能でしたから、後から振り返るとそんなに悪いことばかりではなかったのかもしれない。

このまま新型コロナウイルスが収束して、すこしずつ社会も落ち着きを取り戻し、経済活動が少しでも元に戻っていくことを願うばかりです。次回は新型コロナウイルスから離れて、本来の販売、マーケティングについて書いてみたいと思います。



木下康司 きのしたこうじ

1966年生まれ。キノ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役。

デザインとコミュニケーションの力を使い商品やサービスの価値を高めてブランド力を作り出すことに取り組み続けている。

<http://www.kino-company.com>

6月 玉葱商品産地情報

産地		状況
国産黄玉葱	北海道 府県	北海道産品質に気を付け加工します 府県は軟腐混入があり
輸入黄玉葱	NZ	
中国剥き玉葱	山東省	品質・サイズともに良好です
国産赤玉葱	兵庫	6月中旬から使用予定
輸入赤玉葱	NZ	品質面で不良品が混入しています 品位気を付けて加工します

※本記事に関するご要望・改善等ございましたらお気軽にご連絡ください。

お問い合わせはコチラ⇒TEL049-258-5315